

津堂遺跡発掘調査 現地公開資料

平成 27 年 8 月 30 日（日）
藤井寺市教育委員会・公益財団法人大阪府文化財センター

藤井寺市教育委員会と公益財団法人大阪府文化財センターでは、平成 27 年 5 月より津堂遺跡の発掘調査を進めてまいりました。津堂遺跡では、これまでの調査において、古墳時代前期後半（4 世紀後半）の流路跡や中期（5 世紀）の集落、平安時代から鎌倉時代（11 ～ 13 世紀）にかけての集落跡などが主にみつかっています。

今回の発掘調査は、大規模民間開発事業に先立って約 10,000 m²の面積の調査を実施しており、主に古墳時代前期から中期（4 ～ 5 世紀）と平安時代から鎌倉時代（11 ～ 13 世紀）にかけての集落跡が確認されました。

このうち今回ご覧いただくのは、古墳時代前期から中期を中心とした時期の集落跡で、掘立柱建物・土坑・井戸・溝などの遺構がみつかるとともに、土器をはじめとした遺物が多く出土しています。



大型掘立柱建物 （南から）

調査区南西側では屋内棟持柱をもつ大型の掘立柱建物を2棟確認しました。西側の建物が3×4間、東側の建物が3×3間の建物で、建物の延床面積はそれぞれ35畳、22畳になります。当時としては相当に規模の大きな建物であり、有力者の住まいであった可能性が想定されます。



【凡例】 ■ たてあなたてもの 縦穴建物 ■ ほったてばしらたてもの 掘立柱建物 ■ 溝・井戸 ■ 凹地

調査地全景（南から）



まがたま
勾玉

古墳時代の溝などから勾玉が合計3点出土しています。いずれも滑石製であり、古墳時代中期を中心とした時期のものと考えられます。この他には、有孔円盤やガラス小玉などの祭祀具や装身具なども出土しています。



井戸

古墳時代の土坑のうち、特に深いものについては井戸と考えられます。今回の調査でみつかった井戸については、いずれも素掘りのもので、井戸枠等はみつかっていません。また井戸からは、完形の土器が多く出土する場合もあり、井戸の廃絶に際して祭祀的な行為をおこなっていたことがうかがえます。



溝群 （南東から）

調査区の南東から北東方向にむかって10数条の溝がみつっています。これらの溝群は時期幅があると考えられますが、溝の下面から掘立柱建物を構成する柱穴等がみつかることから、多くは古墳時代中期以降に掘削されたことが想定されます。